

2024年3月28日  
(6-6)

## 長期構想のセカンドステージ 「中期経営計画2026～Re-build～」がスタート

株式会社東急エージェンシー(本社：東京都港区 代表取締役 社長執行役員：高坂俊之)は、2024年4月～2027年3月までの3カ年を対象とした、「中期経営計画2026～Re-build～」を策定したことをお知らせいたします。

創業60年を迎えた2021年に、コーポレートスローガンに“Symphonized Value Creation. (響きあうチカラで、新たな価値を。)”を掲げ、パーパス、ビジョン、バリューを策定いたしました。長期構想にあたるビジョンでは、2030年に実現したい当社の姿を「お客さまの事業成長のために並走する、体験価値共創企業へ。」と定め、事業活動を進めています。

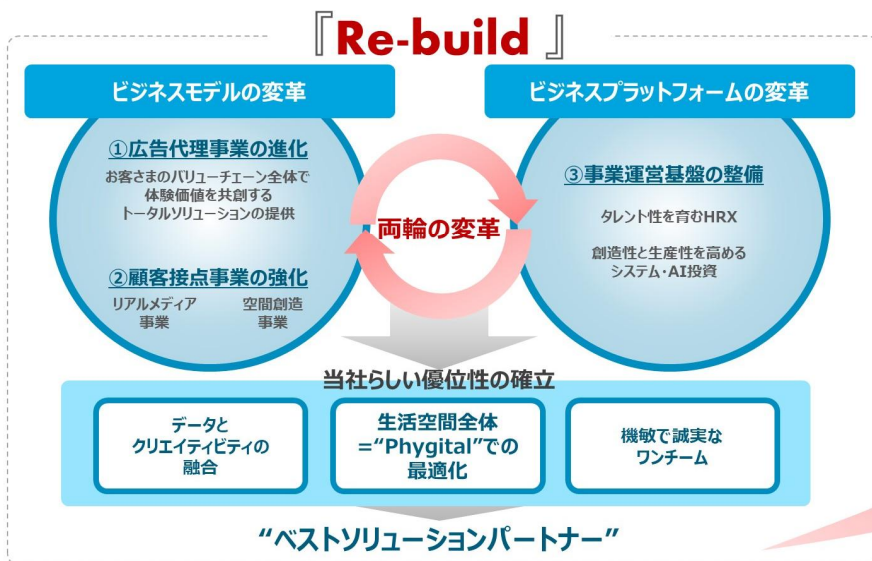
このたび2024年4月より、長期構想でのセカンドステージにあたる「中期経営計画2026～Re-build～」(以下、新・中期経営計画)がスタートいたします。新・中期経営計画では、お客さまが直面している事業環境の変化やテクノロジーの劇的な進化を踏まえ、より効果的なソリューションを提供していくべく、当社の「ビジネスモデル」「ビジネスプラットフォーム」の両輪の変革に取り組んでまいります。

### 新・中期経営計画のポイント

「ビジネスモデルの変革」では、中核事業である「広告代理事業」の進化\*1を実現し、同時に「リアルメディア」「空間創造」などの「顧客接点事業」\*2を強化することで、お客さまへのソリューションの幅と質を向上してまいります。

「ビジネスプラットフォームの変革」では、人材とシステム・AIへの積極的な成長投資を行うことで、ヒトとテクノロジーを響き合わせ、課題解決力を高めてまいります。

### 2024年度～2026年度 新・中期経営計画



### 長期構想(2030年)



SYMPHONIZED  
VALUE  
CREATION.

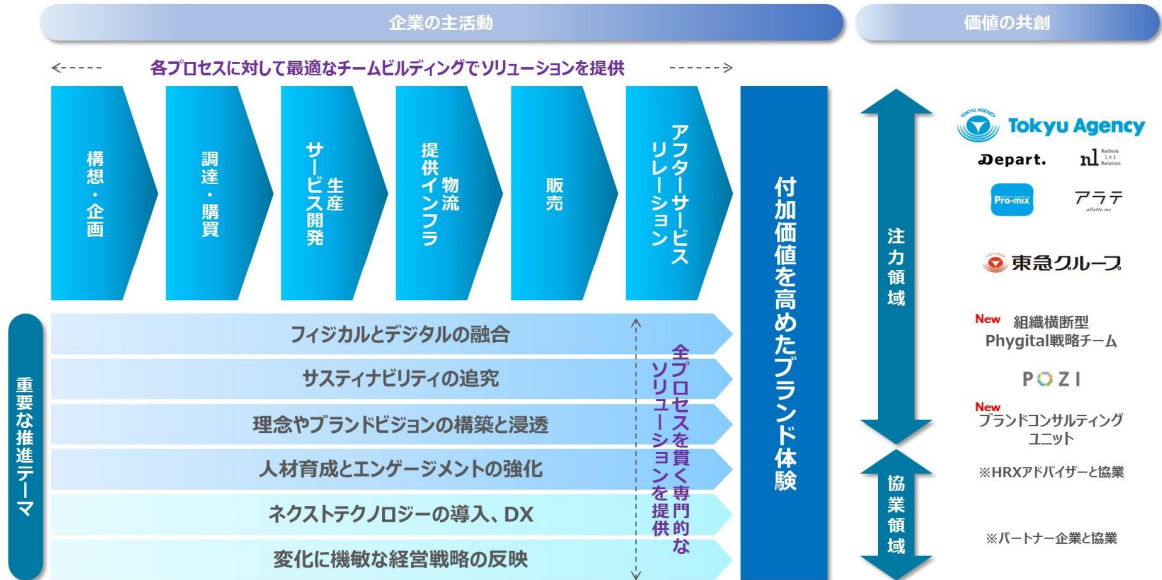
#### 【ビジョン】

「お客さまの事業成長のために並走する、体験価値共創企業へ。」

**\*1 広告代理事業の進化～バリューチェーン全体での価値共創へ～**

お客さまが直面している課題に応え、より付加価値の高いブランド体験を実現するために、東急エージェンシーは「お客さまのバリューチェーン全体での価値共創」に取り組んでまいります。

**企業活動のバリューチェーンと並走するトータルソリューション**



企業が価値を生み出すための主活動は、主に6つのプロセスに整理できます。「購買」や「リレーション」プロセスにおけるコミュニケーション領域はもちろんのこと、「構想」「サービス開発」「提供インフラ」などのプロセスにおけるマーケティング領域、事業領域でのソリューションを、当社および専門ユニットさらに東急グループのリソースを活かしてトータルに提供してまいります。

また東急エージェンシーは、全てのプロセスを貫いて推進すべき、現代の価値創造に求められる重要な6つのテーマを掲げ、「フィジカル(リアル)とデジタルの融合」「サステナビリティの追究」「ビジョンの構築と浸透」「従業員エンゲージメントの強化」については独自のソリューションの開発・提供を強化してまいります。

**\*2 顧客接点事業の強化～新たな体験機会の創出～**

当社の特長である顧客接点事業については、DXを進めスケールを拡大してまいります。リアルメディア事業においては、TOKYU OOHのデジタルアドネットワーク化の推進やインパクトのある新規媒体開発に取り組めます。空間創造事業においては、店舗やショースペースのコンセプト開発からデザイン、施工に至る一連のプロセスをワンストップで提供し、かつデジタルと融合した新たなブランド体験を実現します。また東急グループの文化・エンターテインメント事業との連携により、コンテンツの力で魅力ある新たな顧客接点を生み出してまいります。

東急エージェンシーは、「中期経営計画2026～Re-build～」を着実に実行することで、お客さまの“ベストソリューションパートナー”となることを目指してまいります。